

外国人技能実習

介護職種で初認定

中国女性2人 来月にも本県へ

外国人技能実習制度に昨年11月、新たに追加された介護職種で、監督機関の「外国人技能実習機構」が中国人女性2人について入国に必要な実習計画を初めて認定したことが9日、分かった。受け入れ先は本県の介護事業者で、手続きが順調に進めば、6月にも入国する見通し。

認定は5月1日付。受け入れ窓口となる監理団体は宮崎ウッド事業協同組合（西都市、横田欽一郎代表理事）。組合によると、1カ月間の研修を組合で受けた後、メンバーウェルフェアサービス（延岡市北川町、小野真社長）が運営する介護付き有料老人ホームと認知症グループホームで働く。

2人はいずれも40代で、中国・大連の介護施設で勤務経験があり、入国の要件である日本語能力試験N4レベルに合格しているという。実習期間は最長の5年間を予定している。

メンバー社ではさらに2人の実習生受け入れを予定しており、小野社長は「中国での事業展開を見据えて人材を育てたい。介護職は十分確保できている」と話している。

県内金融概況

「緩やかな回復」維持

観光は宿泊客増で堅調

日銀宮崎事務所は9日に発表した県内の金融経済概況で、全体の景気判断を「緩やかな回復を続けている」として、前発表（4月）から据え置いた。個人消費は底堅く推移し、観光は全体的に堅調な動きが続いている。

3月の百貨店・スーパー販売額は前年同月比5・7%減だったが、コンビニやディスカウントショップからは花見のニーズなどで好調との声があった。乗用車新車登録台数は0・2%増。軽自動車の順調な売れ行きが全体をけん引、普通車は新型車効果が一巡しマイナスだった。

主要ホテル旅館宿泊客数は4・3%増で、主要観光施設入場者数は0・7%増。快晴の日が多いなど、気象条件に恵まれて外国人を含めた観光客の入り込みが多かった。

2月の鉱工業生産指数は93

1. 電子部品・デバイスの一部は不調だったが、ヒアリングでは車載向け部品や繊維などの工場でフル生産が続いている。

有効求人倍率は2月が1・49倍、3月が1・50倍と高水準で推移している。

同事務所の佐藤信一所長は「新燃岳と硫黄山の噴火が、観光面などでどのように影響があるかに注視したい」と話した。（佐藤友彦）

Pick Up

新店舗オープン ヨコヤマ（北九州市）が日向市財光寺にサテライトショップをオープン＝写真。オープ



ン特価のプレハブや各種サイズのユニットハウスを展示販売。事務所や趣味部屋、店舗など用途に合わせたオーダーメイド製品も扱う。午前8時半～午後5時。☎0982(57)3275。

立体干し女性用ハンガー ダイヤコーポレーション（東京）は、女性用の肌着を立体的に干せる「ダイヤブラトップハンガー」を発売した＝写真。



「ブラトップ」と呼ばれるカップ付きの肌着を空間がよように掛けられ、風通し良く効率的に乾かせる。2本入りで702円。消費者サービス係☎03(3381)5454。

4月の倒産 県内は1件

民間信用調査機関3社（帝国データバンク、東京商工リサーチ、東京経済）は9日、4月の県内企業倒産集計（負債額1千万円以上）を発表した。このうち帝国データバンク宮崎支店によると、法的整理による倒産件数は1件で、負債総額は2千万円だった。倒産件数は66カ月連続で1桁台。

倒産したのは都城市の健康食品小売会社。1950（昭和25）年の創業で、ピーク時にはドラッグストア8店舗を運営していた。昨年6月に破産手続き開始が決まったビューティプランニング（都城市）のグループ会社で、同社に連鎖する形で事業停止していた。

同支店は「景気の不透明感が続く中、人手不足感の強いサービス業、医療・福祉業で求人数が高止まりしており、人手不足を要因とする事業停止や倒産が懸念される」

MIYAZAKI BUSINESS NEWS

FAX 0985-23-3916
Email keizai@he-miyazaki.co.jp